

活動実施計画書

団体名：藤が丘まちづくり協議会

1 都市マスとの関連性（A～H、1～3をそれぞれ選択して記入してください。）

B-1：賑わいを創出する交通機能の強化／C-1：災害（感染症等を含む）につよいまちづくり
F-3：個性的な魅力空間の創出

2 活動地域の特性、現況、課題

①地区特性

- 歴史と基本特性：藤が丘地区は昭和40年代に名東区東端の山林原野が土地区画整理事業によって整備された地区。名古屋市中心部への交通利便のよいベッドタウンとして発展。
- 変化：愛・地球博の開催を機に長久手町（現、長久手市）から豊田市に至る東部丘陵線（リニモ）が整備されて沿線地区の開発が進み、住商複合の総合的な地区に成長。
- 住民：成立当初はいわゆる通勤族である住民が多く、現在も若年社会人の単身者層が多いことが特徴。昨今は定住者が増加するとともに20歳代の住民が減少、子育て層、高齢者層の割合が増加している。住民の地区に対する評価、関心が高い。

②現況

- 当初の地区特性：居住を中心とする名古屋の東の玄関として成立した住宅中心地区。
- 変化：リニモ沿線開発によって地下鉄藤が丘駅、リニモ藤が丘駅の乗降数が増加、分譲マンションも増加しており住商業複合の名古屋東部の中核になりつつある。地区の成熟に伴い、高齢者層が増加、転入・転出が落ち着く中、住民のコミュニティ意識も高まる中、ジブリパークの開園を契機に地区外との交流のあり方についても議論が始まっている。

③課題

- 都市型コミュニティづくり（短・中期課題）：都市型コミュニティ構築に向けた持続的なエリアマネジメントづくり。
- 市街地整備（中・長期課題）：老朽化する都市インフラの計画的な再整備、特にコロナ渦を教訓にした災害に強く賑わいもある地区づくり等、具体的な地区の将来像を地区住民発案で示すことが課題。
- 地下鉄名城線高架下利用再生（短・中期課題）：耐震補強整備のために立ち退きが行われた地下鉄藤が丘線高架下空間の、地区の活性化に資する再生活用住民案の策定が喫緊の課題。
- ジブリパーク対応（短・中期課題）：ジブリパークの開園によって純増する藤が丘駅通過者（外国も含む）を商店街新規顧客とするとともに、地区住民との新たな交流を契機とした地区アイデンティティづくりと持続性のあるまちづくりを進めることが課題。

3 団体の活動実績

※ 過去に地域まちづくりの助成を受けたことがある場合、その実績も含めて記入すること

2020年：藤が丘まちづくり協議会設立・地域まちづくり活動団体登録
リニモ沿線地域づくり会議に委員として参加
2021年：施設部会設置、名古屋市長、愛知県知事に要望提出
建築系愛知16大学設計競技（藤が丘エリアがテーマ）の二次審査に参加
「広報藤が丘」6月号～9月号に藤が丘の歴史、まちづくり方針について連載
2022年：施設部会を4回開催し、藤が丘駅周辺の「駅まち」化を検討

「藤が丘地区住民まちづくり意向調査」の実施および分析

「藤が丘まちづくりニュース第1号」発行

「エリアマネジメント先進地区：横浜市黄金町他」視察

2023年：施設部会を構想策定部会に改組し、まちづくり基本構想の検討、地区のゾーン検討、地下鉄高架下活用、駅まち地区整備方針等について検討を進めた（6回）

「藤が丘地区住民まちづくり意向調査」のクロス集計等による分析を実施

「藤が丘まちづくりニュース第2号」発行

まちづくりワークショップのための地区住民ファシリテータ育成講座を実施（2回）

まちづくりワークショップを開催（2回）

4 助成を受けようとする活動の目的

- ①藤が丘地区のまちづくり構想（短・中期構想、中・長期構想）の策定（令和6年度中）
- ②老朽化した都市インフラの再整備による地区再生のまちづくりビジョン構築の前提となる藤が丘地区にかかるステークホルダー（地域住民の各層、事業者、地権者等）との状況共有
- ③協議会が持続的かつ効果的にエリアマネジメントを展開して藤が丘地区の地区再生に継続的に寄与するためのエリアマネジメント組織の形態と運営手法の模索

5 活動による今年度の成果目標

- ①藤が丘まちづくり基本構想（短・中期構想、中・長期構想）の策定
- ②藤が丘地区にかかるステークホルダーとの情報共有
 - ・藤が丘まちづくり基本構想骨子リーフレットの制作
 - ・ワークショップの実施
 - ・藤が丘まちづくり基本構想冊子の制作
 - ・藤が丘まちづくり基本構想資料集の制作

6 助成を受けようとする今年度の活動内容

- ①藤が丘まちづくり基本構想骨子リーフレットの作成：地区住民等を対象に、基本構想の骨子を抜粋した概要版リーフレットの作成（A4・4頁 6,000部）
- ②藤が丘まちづくり基本構想冊子の作成：基本構想策定部会での検討結果を前提に、コンセプト・プランをイラスト等とともに作成、印刷（A4・16頁 6,000部）
- ③藤が丘まちづくり基本構想資料集の作成：今後のまちづくり活動の展開に資する情報を収集し、掲載する資料集の作成（A4・80頁 200部）
- ④まちづくりワークショップの実施：藤が丘にかかるステークホルダーによるワークショップ実施（子育て層等を対象に2回）

7 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

藤が丘学区団体連絡協議会

藤が丘学区区政協力委員会

地下鉄および東部丘陵線藤が丘駅周辺地権者（ランドオーナー会議）

名古屋市住宅都市局

名古屋市交通局

UR都市機構中部支部

※ この様式は公開されます。

8 今年度の活動内容のスケジュール

年 月	活 動 内 容
令和 6 年 5 月 13 日 5 月 27 日	第 1 回藤が丘まちづくり基本構想策定部会 令和 6 年度 藤が丘まちづくり協議会総会
7 月下旬	第 2 回藤が丘まちづくり基本構想策定部会
9 月 11 日 9 月下旬	区政協力委員・団体連絡協議会との懇談会 藤が丘中央商店街振興組合等との懇談会 第 3 回藤が丘まちづくり基本構想策定部会
10 月	第 1 回ワークショップ（子育て世帯対象）
11 月上旬 11 月 13 日	第 4 回基本構想策定部会 「まちづくり基本構想骨子リーフレット」印刷終了 区政協力委員・団体連絡協議会との懇談会 藤が丘中央商店街振興組合等との懇談会 ランドオーナー（藤が丘駅周辺地権者）との懇談会 「まちづくり基本構想骨子リーフレット」を自治会加盟世帯、小学校保護者に配布 第 2 回ワークショップ（地域住民対象）
令和 7 年 1 月 15 日	区政協力委員会・団体連絡協議会との懇談会 藤が丘中央商店街振興組合等との懇談会 第 5 回藤が丘まちづくり基本構想策定部会
2 月	藤が丘まちづくり基本構想冊子印刷完了 藤が丘まちづくり基本構想資料集印刷完了 ランドオーナー（藤が丘駅周辺地権者）との懇談会 藤が丘まちづくり基本構想冊子の自治会加盟世帯および小学校児童保護者配布
3 月	第 6 回藤が丘まちづくり基本構想策定部会

9 構想策定までの想定プロセスと以後の展望

令和 6 年度は過年度の成果を継承、協力体制にある U R 等から先行事例の資料提供を受けつつ基本構想策定部会で構想を検討し、その概要を示した「藤が丘まちづくり基本構想骨子リーフレット」を作成、これを資料として、藤が丘地区のステークホルダーと住民ファシリテータを活用して協議・共有した上で、最終的に「藤が丘まちづくり基本構想冊子」を制作、配布する。作成資料は関係各位に配布するとともに来年度以降も構想策定協議資料として活用を継続する。

次年度以降は、作成した基本構想に基づき、構想実現に向けたアクションを展開することになる。第一弾としては地区の喫緊の課題である地下鉄高架下活用について地区住民の意向が反映された利用実現に向かって提案活動を行うとともに、中長期にわたる展開を見据え、藤が丘地区に適合するエリアマネジメントのあり方について実践的な模索を展開する予定である。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、3 ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。